

## 平成24年度第1回四街道市みんなで地域づくり推進委員会会議録

### 【開催日時等】

<開催日時>

平成24年6月8日（金）14時～16時30分

<開催場所>

四街道市保健センター三階視聴覚室

<出席者>

（委員）庄嶋委員長、江口副委員長、大沼委員、原委員、小島委員、熊倉委員、中村委員、船津委員、猿橋委員、丸野委員

（事務局）大野政策推進課長、宇田市民活動推進室長、齋藤副主査

（みんなで地域づくりセンター）NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ（NPOクラブ）勝又副代表理事

<傍聴者>

1人

### 【次第】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 挨拶
- 4 委員長・副委員長選出
- 5 委員長挨拶
- 6 議事
  - (1) みんなで地域づくり推進委員会の運営について
  - (2) 地域づくりコーディネーター業務委託について
  - (3) 平成23年度みんなで地域づくりセンター事業報告について
  - (4) 平成24年度みんなで地域づくりセンター事業計画について
  - (5) みんなで地域づくり推進のための施策の進捗状況について
  - (6) みんなで地域づくり事業提案制度について
  - (7) その他
- 7 連絡事項

**【配布資料】**

- 資料No. 1 みんなで地域づくり指針
- 資料No. 2 「みんなで地域づくりセンター」のあり方
- 資料No. 3 みんなで地域づくり推進委員会要綱
- 資料No. 4 みんなで地域づくりセンター関連資料
- 資料No. 5 平成 23 年度みんなで地域づくりセンター事業報告
- 資料No. 6 平成 23 年度みんなで地域づくり関連資料
- 資料No. 7 平成 24 年度みんなで地域づくりセンター事業計画
- 資料No. 8 「みんなで地域づくり」推進のための施策の進捗状況
- 資料No. 9 四街道市NPO・ボランティア関連事業一覧表
- 資料No.10 みんなで地域づくり事業提案制度関連資料
- 資料No.11 平成 24 年度地域づくり活動助成事業関連資料
- 資料No.12 みんなで地域づくり推進委員会開催予定

## 【会議経過】

### 1 開 会

【事務局（宇田室長）】

皆さんこんにちは、定刻になりましたので、ただ今から平成24年度第1回目となりますみんなで地域づくり推進委員会を開催いたします。

本日は10名の委員全員が出席しております。

みんなで地域づくり推進委員会要綱第7条第2項に規定します過半数に達しておりますので、本日の会議が成立しておりますことをご報告いたします。

### 2 委嘱状交付

【事務局（宇田室長）】

それでは、今回新たな任期の委員会ということで委嘱状の交付をさせていただきます。

なお、本来であれば市長から委嘱状を交付させていただくところですが、ただいま6月定例議会中で、現在本会議が開催されております。

大変失礼でございますが、事務局より委嘱をさせていただきます。

大野政策推進課長より交付させていただきますので、氏名を呼ばれました方からご起立のうえお受け取りください。

（委嘱状交付） 略

### 3 挨拶

【事務局（宇田室長）】

続きまして、政策推進課の大野課長よりご挨拶申し上げます。

【事務局（大野課長）】

本日は大変お忙しい中、またお暑い中、平成24年度の第1回目となるみんなで地域づくり推進委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

先ほど室長からご説明ありましたが、本来ならば佐渡市長の出席のもと、皆様に直接委嘱状をお渡しさせていただき、またご挨拶いただくというような筋でございますが、市議会開会中ということで、私、政策推進課長の方からお渡しさせていただいて、一言ご挨拶させていただきたいと思っております。

委員の皆様におかれましては、昨年度から引き続き今回もお引き受けいただいた方、また新たにお引き受けいただきまして就任された方、学識経験の委員をはじめ、関係機関の代表ということで今回就任された皆様、本委員会の委員就任を快くお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。

また、市民代表のお二人の方におかれましては、委員募集に積極的にご応募いただい

たということ本当にありがとうございます。

応募は数名いらっしゃいましたが、その中からお二人が市民代表で2年間お願いするということでございます。

さて本委員会でございますが、皆様ご承知ではございますが、みんなで地域づくりの積極的な推進を図るため、広く意見を交換する場として、本委員会は平成22年7月に設置されたところです。

本市では平成20年9月に「四街道市みんなで地域づくり指針」を策定しましてみんなで地域づくりの推進を図っているところです。

また、平成22年9月に、「みんなで地域づくりセンター」を開設いたしまして、協働コーディネート機能の強化を図っております。

また今年度から3年間、平成26年度まで、引き続きNPOクラブに業務を委託しました。

さらに、昨年度から皆様からご意見を伺っておりまして、「みんなで地域づくり事業提案制度」の制度設計を進めているところですが、こちらにつきましても平成25年度事業開始を目指して現在準備を進めております。

また本日もいろいろと議事で皆様にご意見を伺いたいと考えておりますのでよろしくお願いいいたします。

こういった市が進める事業に対しまして、本委員会の皆様から広範囲にわたりご意見を賜りまして、いただいたご意見をもとに、今後のみんなで地域づくりに生かしていくということで、本委員会は非常に重要な役目を担っている機関でございます。

委員の皆様におかれましては、みんなで地域づくり推進のためにご尽力をいただくということをお願い申し上げるとともに、それぞれの立場から忌憚りの無いご意見をいただきますようお願い申し上げます。

どうぞよろしくお願いいいたします。

#### 【事務局（宇田室長）】

続きますので、委員の皆様を改めましてご紹介いたします。

一言、自己紹介ということでご発言いただきたいと思います。

有識者の方、今回3名お願いしてございます。

庄嶋孝広委員です。

#### 【庄嶋委員】

庄嶋と申します。

前期はこちらの委員会で委員長を務めさせていただきました。

住まいは、今、朝の連ドラ「梅ちゃん先生」の舞台となっています東京都大田区ですが、私の仕事は地方自治体や市民活動による地域づくりの応援を仕事にしておりまして、プラス在住の大田区の非常勤のアドバイザーということで、公務員も兼業している「兼業公務員」になります。

兼業公務員ということであると、実は私は、先ほど話に出た指針を策定したときに、

四街道市の職員を兼業しておりまして、その当時自分が関わって作った政策の、実行段階のところを委員という立場で参加させていただいているということになります。

住まいの大田区ではNPOの理事やPTA会長などもやっております、自分自身も住民として地域づくりにがんばっております。

よろしく願いいたします。

**【事務局（宇田室長）】**

よろしく願いいたします。

同じく有識者委員として、小島妃佐子委員です。

**【小島委員】**

今回初めてこの委員会にお邪魔させていただくこととなりました。

住まいは千葉市ですが、実は8年程、山武市のまちづくりに関わっております。

NPOが山武市にありまして、ICTを使ったまちづくりをしております。

NPOに入る前にメーカーのエンジニアをやっております、IT関係ばかりですが、ITの知識を地域に還元できないかなと思ひましてNPOに入りまして、もう8年経ちました。

今は山武市の地域SNSの運営幹事をしております。

どうぞよろしく願いします。

**【事務局（宇田室長）】**

よろしく願いいたします。

同じく有識者委員として、熊倉瑞恵委員です。

**【熊倉委員】**

初めまして熊倉と申します。

私、今回初めて参加させていただき、少し緊張しています。

私は現在、愛国学園大学で働いております。

たまたま私の友人が四街道市に住んでいるということで、お声をかけていただいたということです。

私自身の住まいは東京です。

四街道市のことなどまだまだわからないことが沢山あると思いますので、皆さんにいろいろ教えていただきながら、四街道市を元気が出るようなものにしていきたいと思っています。

私自身は、大学では社会福祉、地域福祉なども担当しておりますので、そういったことも含めて私自身現場に関われるのはとても幸せなことだと思っております。

よろしく願いいたします。

**【事務局（宇田室長）】**

よろしく願いいたします。

次に、地域づくりを担う主体の構成員として、区・自治会関係、中村信正委員です。

**【中村委員】**

中村と申します。

みそらに約40年住んでおりまして、今までは自治会関係を随分やっております。

市の仕事というのは慣れておりませんので戸惑っておりますけれども、自治会もいろいろ難題を抱えています。

そういうものもアドバイスしていただいて、地域づくりができればいいなと思っております。

よろしくご指導のほどお願いいたします。

**【事務局（宇田室長）】**

よろしくお願いいたします。

農業関係、船津守委員です。

**【船津委員】**

船津です。

現在、四街道市農業委員会会長を務めておりまして、私自身は鹿放ヶ丘に住んでおります。

農家をやっておりますが、近日中に、22、3町歩の麦刈りがスタートしてこれから忙しくなります。

またよく分からないですが、皆さんに勉強させていただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

**【事務局（宇田室長）】**

よろしくお願いいたします。

つぎに文化、芸術、生涯学習、社会教育関係、江口勝善委員です。

**【江口委員】**

以前は学校にいまして、今は幼稚園で仕事しています。

今の私の課題、気になっていることは、居場所のない子ども、中高生が結構いまして、その子たちがどのように社会のなかで生きていけばいいのだろうかということで、すごく課題となっています。

もう1つは、子育て世代のお母さんたちが、結構孤立しがちだということです。

その辺のつながりをどのようにして作っていったらいいのだろうかということが関心事です。

そういう点から四街道市でもっといいことができないのだろうかという思いはいつも持っております。

よろしくお願ひします。

**【事務局（宇田室長）】**

よろしくお願いいたします。

スポーツ関係、原公栄委員です。

**【原委員】**

名簿に記載されている四街道SSCというのは、総合型地域スポーツクラブのひとつ

となります。

昨年から本格的に事業展開している中で、事務局長という職で関わらせていただいております。

自分自身は小学生バレーボールの指導者もやっております、子ども視点でいろいろ考えさせていただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

**【事務局（宇田室長）】**

よろしく願いいたします。

ボランティア関係、大沼滋子委員です。

**【大沼委員】**

私は四街道市の社会福祉協議会のボランティアセンターのコーディネーターをしております。

地域づくりを担うボランティアの皆さんの活動をお手伝いさせていただいている仕事になります。

課題は、ボランティアの皆さん高齢化で、50代、60代はボランティアにとっても若手という感じなのですが、70代、80代でもボランティアをやっている方も大勢いらっしゃいます。

それでもやはり次へつなげていくためには40代、50代、60代の皆さんにボランティアしていただけるように、日々苦悩していますので、皆さんのアイデアをいただきたいと思っています。

よろしく願いいたします。

**【事務局（宇田室長）】**

よろしく願いいたします。

次に公募市民委員、猿橋芳生委員です。

**【猿橋委員】**

こんにちは、猿橋です。

私はNPO法人ネットワーク大地で事務局をしております。

この会は、我々市民が核家族化と高齢化によりまして孤立を深めている、自立的な日常生活を営むのに不便を来すこともあるということで、みんなで絆をつくり、仲間をつくり、その中でお互いに助け合おうではないかというような活動をしております。

助ける余力のある人が、ちょっとした困りごとのお手伝いをするというようなことを主にしております。

例えば病院に行くときの手段がない、病院の中の移動が難しいといったときに、我々が車に乗せて、病院の手続き等のお手伝いをしているところです。

それ以外、絆をつくるということで、みんなでいろいろ顔見知りになるということで、親睦活動を行いながら、日常生活の自立した、みんなで生き生きできるような生活が送れるようなことができればいいなと思いながら進めています。

それから私個人としては、市民活動というのはひとつひとつがばらばら動くのではな

くて、行政と一緒にしながら、あるいはNPOがいろいろな面で活動している方が大勢いらっしゃるの、四街道市を良くするために、我々の生活が良くなるということに対して、手をつないで活動していこうというようなことも行っていきたいと思っています。いろいろ活動させていただいています。

よろしく願いいたします。

**【事務局（宇田室長）】**

よろしく願いいたします。

公募市民委員、丸野義人委員です。

**【丸野委員】**

千代田5丁目から来ました丸野と申します。

私は四街道市に住むようになりましてまだ2年経っておりません。

一昨年9月に妻の実家があります四街道に転入してまいりまして、その前後で、地域づくりに非常に興味がありまして、以前はIT関係の仕事をしておりましたけれども、今は佐倉市の有機農業の研修をする傍ら、地域づくりの活動としては、経済的な地域の貨幣化として地域通貨、それから農業の活性化ということで休耕地の再生に非常に興味がありまして、今、何かしらやりたいなと思っています。

農業では自給的な範囲で耕作はしてまして、小麦、米、大豆、大豆はこれからですけどもやるところです。

地域づくりという観点で、長いこと四街道でご活躍されてきた皆さんに教えていただきながら、私もがんばっていききたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

**【事務局（宇田室長）】**

よろしく願いいたします。

皆さんありがとうございました。

事務局からを自己紹介いたします。

**【事務局（齋藤副主査）】**

政策推進課市民活動推進室の齋藤と申します。

こちらの業務に携わりまして3年目になります。

皆さんと一緒に良い四街道をつくっていければと思っています。

よろしく願いいたします。

**【事務局（大野課長）】**

政策推進課長をやっております大野と申します。

政策推進課は市民協働という観点で非常に重要なポジションを持っている傍ら、市の総合計画を担当させていただいております。

そのほか統計、交通を総括して政策推進課でやっておりますが、市だけでやるのではなくて、市民の皆さんと協働してやっていくと観点で非常に重要だと思っています。

総合計画にも是非そういった視点を反映させていきたいと個人的には思っております。今年もよろしく願いいたします。



**【事務局（宇田室長）】**

市民活動推進室長の宇田と申します。  
私の主な仕事は通訳と交通整理です。  
どうぞよろしくお願いいたします。

**【NPOクラブ（勝又）】**

みんなで地域づくりセンターのコーディネーター業務を受託しておりますNPO法人  
ちば市民活動・市民事業サポートクラブ、通称NPOクラブの勝又と申します。

よろしくお願いいたします。

平成22年の9月にセンターがオープンしてからコーディネーター、スタッフとセン  
ター業務をしています。

#### **4 委員長・副委員長選出**

**【事務局（宇田室長）】**

次に、委員長の選出です。

みんなで地域づくり推進委員会要綱第7条第1項で委員長が議長になると定められて  
おりますが、今回初回ということなので委員長が不在です。

委員長選出までの間、政策推進課長が仮議長として務めさせていただきますのでご了  
解をいただくとともに、大野の進行で進めさせていただきます。

**【仮議長（大野課長）】**

それでは仮議長ということで、進行させていただきます。

まず、委員会の委員長、副委員長につきましては、皆様のお手元にごございます要綱第  
6条第2項の規定によりまして、委員の皆様の互選によって決定することになっており  
ます。

まず委員長からお諮りいたしたいと思います。

立候補でも推薦でも構いませんが、意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

**【大沼委員】**

前期からの引き続きということで、庄嶋さんに委員長をお願いしたいと思うのですが、  
皆様いかがでしょうか。

**【各委員】**

(拍手)

**【仮議長（大野課長）】**

今、大沼委員より庄嶋委員を委員長にというご意見がございました。

皆様拍手をいただいたということで、意見なしということでよろしいでしょうか。

**【各委員】**

はい。

**【仮議長（大野課長）】**

庄嶋委員、よろしいでしょうか。

【庄嶋委員】

はい。

【仮議長（大野課長）】

それでは委員長は庄嶋委員にお願いしたいと思います。

ここで私は仮議長の役目を解かせていただきます。

以後の進行につきましては、庄嶋委員長にお願いしたいと思います。

【庄嶋委員長】

今、委員長に選出していただきました庄嶋です。

改めましてよろしくお願ひいたします。

私は本業でファシリテーターという会議進行や皆様の意見を引き出しながら合意形成を図ったり、意見交換していくようなことをしている関係もございまして、また、考え方によってはこちらの四街道市に在住の方が委員長を務めるという考え方もあるかとは思いますが、皆さんそれぞれの選出の立場があり、思う存分議論していただく意味では、外から来ている私のような立場の方が都合のよい部分もありますので、今期も引き受けさせていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

引き続き副委員長の選出を行います。

副委員長に関しても立候補、ないしは皆さんから推薦をいただきまして決めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

ちなみに、私から見て左側にお座りの5人は前期からの引き続きで、お互いのことは良く知っています。

【原委員】

江口さんがよろしいと思います。

【各委員】

(拍手)

【江口委員】

わかりました。

【庄嶋委員長】

一言お願いします。

【江口副委員長】

実を言いますと私、前年度の最後の回、他の予定とバッティングして欠席してしまい、本当に申し訳なかったのですが、そういったことのないように今年心掛けてやっていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

ちなみに10年ほど前から市民参加条例をつくる際の委員長などに関わってきまして、本当に居るだけの人間なのですが、皆さんよろしくお力添えをお願いしたいと思います。

【事務局（宇田室長）】

現在議会中で一般質問の市長ヒヤリング等もありますので、ここで課長が退席をさせ

ていただきます。

## 5 委員長挨拶

【庄嶋委員長】

それでは江口副委員長とともに会議の運営を進めさせていただきたいと思います。

【庄嶋委員長】

それでは事前に郵送で送られた本日の資料、プラスして配られている資料があります。

この会議については、傍聴者の方がいらっしゃれば、この時点から入っていただくのですが、特に非公開にする案件がない場合は公開ということになります。

今日は配られている議題を拝見する限り、非公開にするような事案はないと思いますが、公開ということによろしいでしょうか。

【各委員】

はい。

【庄嶋委員長】

それでは、傍聴者の方がいらっしゃれば入室をお願いします。

## 6 議 事

### (1) みんな地域づくり推進委員会の運営について

【庄嶋委員長】

改めましてこれから議事に入っていきます。

今日は、第1回目ですが、結構な量の議事があります。

この会議は、前期はだいたい2時間を目安に行ってきましたけれども、時にどうしても議題が多い場合、また今日のように第1回で挨拶などあった場合は多少延びる場合もあります。

2時間で終わらせる努力はいたしますが、議論が白熱した場合は若干延びる場合があるということで、途中でご退席することが必要な場合は、ご遠慮なく退席していただいて大丈夫ですので、よろしくお願ひしたいと思います。

議事の1番目、今日は第2期の第1回ということですので、初めて委員会に出席された委員もいらっしゃいますので、この「みんなで地域づくり委員会」がどういうものなのか、というあたりの話を事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（齋藤副主査）】

お配りいたしました資料1、資料3をご覧ください。

合わせて今日追加で配りました資料をご覧ください。

四街道市は、平成16年度を初年度とする四街道市の総合計画の1つの柱として、「市

民協働で歩むまち」ということが謳われ、その方向性を示す「みんなで地域づくり指針」を平成20年に策定しました。

本委員会はこの指針に基づき設置されたものとなります。

資料3をご覧ください。

みんなで地域づくり推進委員会の要綱となります。

委員会の役割が第3条に記載されております。

①みんなで地域づくりに関すること、②地域づくりの活動助成事業の助成金の審査が所掌の事務となっております。

①みんなで地域づくりに関すること、ですが、地域づくり全般に関する広い範囲の取り組みについて、意見交換等を行っていただくこととなります。

「みんなで地域づくり指針」では、市民活動と行政がともに地域づくりを担っていくことを「地域づくり」と定義しまして、地域課題の解決を図る取り組みを進めているところです。

地域にある課題は行政が解決を図っていくことはもちろんのこと、市民活動団体、NPO団体、ボランティア団体等、地域づくりを担う団体とともに解決を図っていく、こういったことが指針で示されております。

この委員会においては、この指針に定められている施策はじめ、様々な取り組みについて意見交換をしたり、チェックをしたりしていただく、といった位置づけで進めていければと考えております。

それをまとめたものが、本日追加の資料として配付したものとなります。

1から4の委員会の役割として皆様に担っていただき、意見を交わしていただければと考えております。

#### 【庄嶋委員長】

ありがとうございます。

前回から引き続きの委員の方は理解している部分ですが、新しく委員になられた方は、今の説明でなかなか腑に落ちないところがあると思うので、ご質問等ありましたらお願いいたします。

委員会のスケジュールは後で説明するのですか。

今、説明のあった役割をどのようなペースで果たしていくのか、合わせて説明した方が分かりやすいと思います。

#### 【事務局（齋藤副主査）】

事前に配付した資料12をご覧ください。

今後の委員会の開催予定が記載されております。

1回目につきましては、前年度のみんなで地域づくりに係る事業の報告をします。

合わせて新年度の事業計画についてお伝えします。

また、後ほどご説明いたしますが、現行の地域づくり活動助成事業に代わる新しい市民活動を支援する制度についても今後審査していただくこととなります。

例年、年明け2月頃に審査を行っておりますが、その審査が1回入ります。

その前段として、10月頃、新しい制度の評価基準や審査基準も委員会で決定していきたいと考えております。

こういった形でみんなで地域づくりセンターの事業、みんなで地域づくり施策のチェック、意見交換、また市民活動団体支援の補助金制度の審査などを委員会で担っていただく予定です。

**【庄嶋委員長】**

ありがとうございました。

私から言い換えますと、資料12のスケジュールでいいますと第1回目が年度の早いタイミングで開かれます。

皆さんはそれぞれいろいろな団体に所属されているので、団体にたとえますが、団体の場合は4月から6月ぐらいに総会があり、前年度の事業の報告をして、新年度の事業の計画を承認します。

団体の場合はそれ自体で予算を持っていますから、決算や予算も審議します。

今回の6月の委員会は、年度の最初の委員会というので、総会のようなものです。

しかし、あくまで委員会は、市の施策に対する第三者的な立場ですから、我々が何か決定権を持っているというものではないですが、実際に市で政策を進めていく上での参考にしてもらうということで、それぞれの見地から意見を言うていくということがあります。

先ほど出たみんなで地域づくりセンター、みんなで地域づくり推進のための施策、つまりこのみんなで地域づくりという分野の施策を遂行している、車のタイヤにたとえるとすると、市民活動推進室が市の立場で施策の制度的な部分の運用を図っている部分と、みんなで地域づくりセンターが具体的ないろいろな取り組みを進めている部分と両輪あるということです。

本来ならば市民みんなで進捗状況をチェックすべきですが、現実には可能ではないので、委員会がある意味市民に成り代わって、実際にみんなで地域づくりの取り組みがうまく進んでいるのかを見ていくということになります。

それを年間の中で割り振りながら進めていくということで、みんなで地域づくりセンターも非常に膨大な事業に取り組まれていますので、年度の途中で1回、上半期の事業を報告するというで消化していく、といったこともあります。

それから市は制度を作ったり、運用したりしていくという部分で、例えば新しい取り組みをこれからやる、といっても全く新しい取り組みというより、「みんなで地域づくり指針」に基づいて、いろいろな取り組みが体系化されているので、指針に示された取り組みの実現を図ってきます。

指針自体が市民参加で作られたものですが、それを実行するに当たりまして、具体的なテーマの詳細のところは、また市民の声を聞いていかないと本当にどれだけ必要なものかというのが見えないですから、具体的な部分について制度を作り込もうというとき

に、また委員会で意見を寄せるという形になっています。

先ほどの資料12の中に「みんなで地域づくり事業提案制度」というものが出てきますが、今回のこの膨大な資料の中に制度に関する資料が入っています。

今までは「地域づくり活動助成事業」という補助金の仕組みがありまして、この委員会でその助成金の審査をやっていました。

ただ、助成金制度の見直しということがありまして、新たに「みんなで地域づくり事業提案制度」に再編していこうと、ちょうど今その途上にあるというタイミングになっています。

第2期の委員会としては、元々の地域づくり活動助成事業ではなく、それを引き継ぐ仕組みとしての「みんなで地域づくり事業提案制度」というものの審査に関わっていくこととなります。

ただ、この制度自体がまだ今作っている途中ということもあって、その制度自体もどんな制度にしたらいいかという議論もここでやるということで、我々自身が新たな仕組み作りに携わるものを今後運用する上で審査していくということになります。

役割としては、お金を使って様々な地域づくりを支援する仕組みの部分と、センターや市が取り組んでいる事業についてのチェック、市民全体に成り代わって、取り組みがしっかりと進んでいるかを見守っていくことが役割ということになります。

詳細はこの後、内容に関わる報告などがありますので、聞いていただくとして、全体の見取り図ということで今説明があったところです。

何かご質問はありますか。

**【江口副委員長】**

みんなで地域づくり事業提案制度ですが、例えば文化関係、絵の助成などの社会教育に対して教育委員会で行っていますが、金額的な補助が妥当かなどが主な論点になっています。

昨年度あたりから市民の税金を使うに当たって適しているのかどうなのかという論点で考え直そうという意見が出ており、そういう議論も踏まえて、市全体として提案事業を検討するということになるのでしょうか。

**【事務局（宇田室長）】**

後ほど詳しい説明があるのでそこに譲りたいとは思いますが、主に昨今の市民活動も公の部分担うべきだというような議論が高まっております。

四街道でも市民が公的な活動を担っていただいておりますし、団体も増えており、今後も増えていくと思われま。

そういったときに公に成り代わって、市民の方々が社会的な活動をする機会を今後増やしていく必要があるという大前提があります。

そういった事業に有効に新しい制度の補助などを活用していただきたいというのがひとつの大きな狙いです。

既存の文化芸術、あるいは環境などの様々な市民活動に対して個別業務で補助を出し

ている制度は、サンセット型といいまして終期が決められていますので、本来ならばそういういったものも包含して新しい市民活動をひとつの制度で応援していくというものにしたかったのですけれども、昨年、一昨年あたりから個別業務も終期設定して、それぞれ厳密な規定を設けて補助をし始めましたので、同時進行という形になります。

ここで新たに提案するものは複合的な課題を解決するような事業、社会的な事業などが該当してくるという方向付けと、その期待を込めた事業ということになりますので、若干の違いがございます。

【庄嶋委員長】

詳しくは、後ほど議題の中でと思います。他にいかがですか。

委員会の役割、運営について他にいかがですか。

【丸野委員】

事務局にお伺いしたいのですが、商工関係の方が委員にいませんがご事情があるのですか。

【事務局（宇田室長）】

前の任期の時に商工関係の方に委員をお願いして、今回も引き続きお願いしたかったところですが、ご自身の都合ということでご辞退されたという経緯がございました。

市もいろいろな課題がある中で、違う主体の方にもお願いしなければいけないという場面でもありましたので、トータルで判断させていただきまして、今回は商工関係の方がいらっしゃらなかったということでご理解いただければと思います。

## （２）みんなで地域づくりコーディネーター業務委託について

【庄嶋委員長】

次の議題、地域づくりコーディネーター業務委託についてということで事務局からお願いします。

【事務局（齋藤副主査）】

資料４をご覧ください。

今年度より３年間、昨年度に引き続き「NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ」に業務委託を行い、みんなで地域づくりセンターの業務を担っていただきます。

業務体制につきましては、市、政策推進課とNPOクラブが協議、連携を図りながら事業、内部調整等を図りながら進めてまいります。

また自治会、NPO、ボランティア等の各種団体とも連携を図りながら事業を進めていく予定です。

このような取り組みをみんなで地域づくり推進委員会でチェック、意見交換をしていただければと考えております。

現在のもんで地域づくりセンターの運営体制につきましては、NOPクラブの担当者４名、センターのスタッフ７名の体制で３年間業務を行っていく予定です。

**【庄嶋委員長】**

ありがとうございました。

それでは、何かご質問はありますか。

なかなか珍しい形ではあると思います。

間にNPOクラブが入っているのですが、スタッフは市民の皆さんということで、その指導、研修を行っているということです。

昨年まではコーディネーター3人ということでしたが、今回はスタッフが7人おり、そのうちサポートスタッフという立場の方もいらっしゃいます。

増員の経緯など教えてください。

**【NPOクラブ（勝又）】**

コーディネーター3名には様々な事業や活動をしていただいたのですが、例えばヒヤリングに行く、打ち合わせに行く、またコーディネートしていくという中で、3人では少ないのではないかという課題があり、コーディネーターあるいはスタッフを増員していこうという話になりました。

1年目からコーディネーターにはなれないのですが、サポートスタッフの募集をしたところ合計7名の方から応募がありまして、面接を行い、予定していた人数よりは多いのですが、是非一緒にやりたいというメンバーを採用しています。

**【庄嶋委員長】**

応募された方は、全員採用されたのですか。

**【NPOクラブ（勝又）】**

7名の応募がありましたので、面接を行って4名選考しました。

**【庄嶋委員長】**

委員の皆さん、センターへ行かれたことがある方いらっしゃいますか。

スタッフにお会いして、こんな人がいるのだというのはご存知なのですね。

何か質問はありますか。

**【江口副委員長】**

コーディネーターとサポートスタッフの違い、細部の違い、業務の違い、勤務対応の違いなどを教えてください。

**【NPOクラブ（勝又）】**

市の位置づけでは、コーディネーターは地域づくりのコーディネートをするということで、サポートスタッフはそのコーディネーターをサポートしていくということです。

待遇では、時給に面で差があります。

業務を行うに当たってはコーディネーターや昨年からいるスタッフを必ずシフトに入れ、新しいスタッフと一緒に業務を覚えたり、力もつけていくようにしています。

担当業務は、まだ5月時点のものですが、例えば毛見コーディネーターは、地域づくりサロンのワンディシェフをサポートしたり、中川コーディネーターはICT関係や子ども関係、工藤サポートスタッフは防災、自治会の情報交換会などを担当してもらい、



それぞれその担当を新しいスタッフを交えて進めていきます。

【庄嶋委員長】

常時何人体制で業務を行っていますか。

【NPOクラブ（勝又）】

常時、3人から4人です。

【庄嶋委員長】

夜間についてはいかがですか。

【NPOクラブ（勝又）】

夜間は1名です。

昨年は2名でしたが、やはり来館者はそれほど多くないということで、人件費の問題もありますので、今年度は夜間1名にして、昼の時間帯を厚くしています。

【丸野委員】

延べで言うと勤務時間数はどのくらいですか。

【NPOクラブ（勝又）】

一日では、昼休み含めて8時間で、勤務時間としては7時間です。

1人につき週3日くらい勤務になります。

### （3）平成23年度みんなで地域づくりセンター事業報告について

【庄嶋委員長】

他にいかがでしょうか。

今出ましたみんなで地域づくりセンターが実際にどのような取り組みを行ってきたのかという事業報告が次になります。

【NPOクラブ（勝又）】

先ほど委員長からも膨大なというお言葉をいただきましたが、報告書の量も多く、資料がわかりづらい点があると思いますので、後ほどご質問などをお願いしたいと思います。

資料2みんなで地域づくりセンターのあり方をご覧ください。

3ページ目にセンターの機能が書かれておりますが、このことを常に頭に置きながら業務を行っています。

まずは、協働コーディネート機能です。

地域づくりへの取り組みをプロデュースする、また、地域づくりを担う主体をネットワークするということです。

次に地域づくりの情報の収集・提供機能。

収集した情報をもとに、地域づくりの相談に応じる機能。

打ち合わせの場を提供する機能ということで、こういう機能を果たす、あるいは場を

作るためにどのようにしたら良いかについて、月2回のコーディネーター会議の中で話をしています。

そこには政策推進課の職員にご出席いただき、調整やご意見をいただきながら進めているところです。

資料5、昨年度のみんなで地域づくりセンターの事業報告書をご覧ください。

併せて、資料4、みんなで地域づくりニュース関連事業のチラシが綴じてあります。

それでは事業報告書に沿ってご報告いたします。

まず1番の事業全体についてですが、大きな柱として「地域づくりサロン」と「防災連続講座」がありました。

「地域づくりサロン」というのは、市民の情報交換、意見交換の場を作り、気軽な話し合いの中から地域の課題について話し合ったり、そこで人が集うことによってネットワークができて、解決につなげていくという場となります。

人あるいは団体、人と人をつないでネットワークし、地域の課題解決につなげることを目指しました。

地域づくりサロン「ワンデイシェフの魅力」を、平成22年度の後半から開催し、回を重ねる中で、市民グループが立ち上がりましたので、その活動をセンターとしてサポートしてきました。

今年1月に地域の交流や地産地消の場である「日替わりシェフの店 さくらそう」がオープンしました。

次に「自治会情報交換会」年4回開き、「防災連続講座」を開催しました。

「防災連続講座」は昨年3月11日に震災を受け、地域づくりの観点からセンターとして、何かやっていかなければいけないのではないかとということで、講座を延べ8回開いています。

自治会の方、民生委員の方を中心に沢山ご参加いただきまして、延べで464名に参加していただきました。

このように人と人をつないで地域課題の解決をサポートできるように、コーディネート業務を行ってきました。

それからセンター自体がいろいろな人が交流し、活動や地域づくりに参加する場としていきたいということで、福祉施設・紹介フェア「大きなテーブル」を開きました。

これは普段一般にはなかなか目に触れない福祉施設での商品を販売する機会を作ることと、そこで施設の方と一般市民の方が交流できる場を作ろうということで、6月と11月に2回開催し、15団体が出展参加し、4日間で570名が参加しました。

施設と市民の方、それから福祉施設の方同士の交流が図れました。

今後は各団体のネットワークによりさらに課題解決につなげていけるようにコーディネートしていくことが課題だと思っております。

次の若い世代へのアプローチについてご説明いたします。

四街道市は早くから市民活動が盛んな地域で、団体の活動が大変充実し、シニアの方

が沢山活躍しておられます。

一方で若い人の活動が少ないという声が聞かれまして、センターでは子どもやその親の世代、若い世代を対象とした「夏休み小学生ボランティア体験」、「子ども記者育成講座」「ママのためのミクシィ講座 初級編」などを開催しました。

たとえば「子ども記者育成講座」にはサポーターとして大学生などの参加もありまして、新たな活動グループ「こども記者クラブ」が誕生しました。

またブログ、ツイッターなどの習得学習も行いまして、地域づくりを行おうとする若い人たちと出会うことができました。

今後も幅広い世代の人たちと連携して一緒に地域づくりに取り組んでいけるようにしていきたいと思っております。

地域づくりを進めるための講座、セミナーの開催についてですが、市民、市民活動団体の方に参加していただいて、「会計講座&相談会」、「NPO・市民活動入門講座」、「資金調達のコツ」などを開催しました。

センターのスタッフも講座に参加し、センターの役割が担えるよう研修の場として生かしております。

さらに多くの団体、地域の方に出会ってヒヤリングなどを行って、情報の収集を進めるとともに、市民にその情報を効果的に提供するということが昨年度の課題として感じています。

昨年度の委員会の中でもセンターに置いたチラシがなかなか持って行かれないということなどがありましたけれども、チラシ情報の他、様々な形で情報提供していくということが課題です。

もうひとつとして、センターの地域づくりのコーディネーターを育成して、市民が主体的に地域づくりコーディネートを行っていく環境づくりをしていくということで、現在NPOクラブが市からの受託により四街道在住の方を中心にコーディネーター、スタッフとして業務を行っています。

平成24年度から3年間、受託しますが、その中でさらに四街道在住の方を中心に地域づくり活動を行っていくことが課題です。

資料2ページに、各業務の実施内容として、(1)で地域課題への取り組みのプロデュースに関するということということで、地域づくりサロン「ワンデイシェフの魅力」、「自治会情報交換会」、3ページ「子育て支援団体交流会」、「防災連続講座」などを行ってきました。

5ページで、多様な人や団体が地域づくりに参加する企画として、福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」、6ページで「夏休み小学生ボランティア体験」、「ママのためのミクシィ講座」、「子ども記者育成講座」、7ページ、四街道市内の小・中学校の職場体験受け入れで、合計31名の職場体験があり、小学生、中学生に地域づくりについて知ってもらうためのプログラムを組みました。

地域づくり写真展は、地域づくりの活動を紹介しようということで、センターで11

月末から12月まで開催し、3月から施設管理公社の協力によって総合公園での展示、その後、公民館での展示という形で続けて開催しています。

7ページ、情報の収集・提供では、関係団体のヒヤリング、センターニュース、メールマガジン、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどを作成しています。

地域づくりを担う主体からの相談に関することでは、表にしています。

相談と問い合わせと分けてあり、両方とも50件ありました。

9ページでは、ステップアップセミナーとして記載の講座を開いてきました。

10ページでは、地域づくりリーダー養成講座として、「ビジネス手法で地域づくり」をテーマに、富士市の産業支援センターから講師をお呼びして、講演会、個別相談会などを開催しました。

11ページでは、職場内での研修、職場外での外部研修など、県主催の講座なども開かれましたので、コーディネーターが研修を受けております。

平成23年度の報告については以上です。

#### 【庄嶋委員長】

今の報告に対する質問、意見を出していただきたいのですが、始まって1時間ちょっと経ちますので、1回休憩を入れたいと思います。

新しく委員になられた皆さん、いろいろご不明な点もあると思うので、この後、再開しましたらご質問していただければと思います。

(休憩)

#### 【庄嶋委員長】

時間になりましたので再開します。

第1回目でいろいろな情報が提供されましたが、それを消化するには時間がかかると思いますので、本当はゆっくりやりたいのですが、議題もたくさんあるので次に行きたいと思います。

先ほどご説明いただいた平成23年度の地域づくりセンターの業務について、ご質問、ご意見ありましたら出していただければと思います。

特に、新しい委員さん何かありますか。

遠慮なく言ってください。

#### 【小島委員】

実は「子ども記者クラブ」に関わらせていただいております、私、山武市で住民ディレクターという活動をしています。

市民が地域の情報を発信するという活動なのですが、子どもが主体だったらどうだろうというのがすごく興味があって、四街道でやっていらっしゃるというので、ちょっとお伺いさせていただこうと思って今に至るのですが、やはり子どもたちはすごく鋭く大事なことを見ているなと感じました。

先日、企画会議に出ましたら大人顔負けの意見を言うのですね。

やはりすごいなと思ったので、子どもたちの取ってきた情報というのをもっと広く知らせるという方法がないのかなと思ったのですね。

というのは子ども記者が作ったものというのは、多分新聞の形で発信されると思うのですが、今後もうちょっと広く、彼らの活動をアピールできないのかと思うのですけれども、いかがですか。

**【事務局（齋藤副主査）】**

こども記者クラブの取り組みは今年度の地域づくり活動助成事業の採択事業で、秋に発行する市政だよりに折り込んで新聞を発行するという目標に向かって活動をしており、先日、公式のホームページも立ち上げ、新聞に掲載しきれない記事を少しずつアップしています。

掲載に当たっても現在スタッフとして関わっている大学生の皆さんが、赤ペンを入れ、記事をホームページにアップするという作業をしています。

新聞発行という予算もかかるので、なかなかできないですが、ウェブ媒体での発信は少しずつですが進めているところです。

**【小島委員】**

プロセスがすごくおもしろいと思うのです。

多分結果として新聞の形で出てくると思うのですけれども、そこに至るまでの過程がものすごくおもしろいではないですか。

だからそのあたりをうまく皆さんにアピールできると、本当にいいなと思います。

紙にするとやはりお金がかかるのですけれども、今は様々な媒体で情報発信できるので、個人情報の問題もいろいろありますが、可能な範囲で彼らの活動のプロセスをうまく発信してほしいなと思います。

**【事務局（齋藤副主査）】**

こども記者クラブのスタッフのウェブ担当の方についても、普通であれば数十万円かかってホームページ構築するということになるかと思いますが、この取り組みに共感してくださって、自分の労力をもって貢献してくださっております。

今後、たとえば小島委員が関わっていらっしゃる動画の分野においてこども記者とコラボレーションできるようになったらおもしろいなと思いますし、そういった形で取り組みが広がっていければなと思っています。

**【庄嶋委員長】**

ありがとうございました。

今のようにご自身がコミットメントされている分野の観点から論議していただけると良いと思います。

**【熊倉委員】**

予算の関係もあると思うのですが、子どもがたくさんすばらしい活動されていて、場所が文化センターやみんなで地域づくりセンターになっていて、また内容も目的を持つ

たものが多いので、目的を持った方しかいらっしやらない、アクセスしにくいといった状況があるのかなと思うので、特に福祉施設の紹介・販売というような場合には多くの人に目に触れた方がいいと思うので、イトーヨーカドーの前の駐車場のスペースを借りるですとか、駅前の中で畳1枚分くらいのスペースを借りるのもいいですし、もし可能であるならば、そういった今まで気づかなかったような人の興味を掘り起こせるような場所というものも考えていくと、より認識してもらえる可能性が広がるのかなと思いました。

**【庄嶋委員長】**

ありがとうございました。

**【事務局（齋藤副主査）】**

「大きなテーブル」については、今年で3回目、年度でいえば2カ年目になるのですがけれども、まずその1つの意義として福祉施設が横の連携が取れたらなど、それぞれがいい取り組みをしていて、いい商品を作っているけれども、たとえばその技を研究したり、こういう取り組みをしているといったところ知るといった横の連携がまず図れたらいいなというのがあります。

まずその小さなところから始まって、昨年度開催してきた中から、みんなで地域づくりセンターの一角でやっていた取り組みが、施設管理公社のご協力も得て、今度文化センターの中で開催することになりました。

一つ一つクリアできる部分を広げていって、今おっしゃっていただいたような、もっと広く取り組みを知ってもらえるようなものにつなげていけたらと感じています。

**【NPOクラブ（勝又）】**

補足ですが、文化センターの施設管理公社が共催してくださり、大ホールで行われる催しのプログラムに3千部ほどチラシを入れてくださり配布できました。

また高齢者施設の方が以前にいらしたことがあるので、試食お茶があるので遊びにいらっしやいませんかということで高齢者施設に招待状を出したところ、1施設から電話がありました。

市内でこういった取り組みがあることを初めて知り、何か自分の施設でもできないか考えましたと施設の方が言ってくたり、まずは9人くらいで車いすの方も含めて来てくださるということでした。

また、市民の方から協賛として趣味で焼いた陶器を売って、団体の方に分けられるよという話をいただき、現在、センターで陶器を販売しています。

他に、森づくりを行っている四街道フォレストという団体より竹で作ったピアカップを協賛で提供していただくなど継続して3回開催していく中で、先ほどの事務局の話のように、いろいろな形で広がっていていますし、また取り組みが広がらず、同じことやっているだけは駄目だなと思っています。

**【中村委員】**

去年一年間でこれだけの事業を行っていたということがびっくりしているのですけれ

ど、例えば何か行うといったときに自治会に回覧するとしますが、ほとんど見ていないのですね。

あの方法を何か考えられるかなと思っています。

見てくれないのですよ。

1回の情報量が10枚から20枚くらいあるので、ほとんど右から左へと新聞紙と一緒に入って行ってしまうのもったいないのですね。

もうひとつ、以前、市でやっていた観光サポートの活動をやっていました。

我々がやっていることと同じことを一緒に合わさればもっといいことできるのではないかなと思います。

みんなで地域づくりセンターでうまく接点を作っていただければと思います。

観光サポートも引き続きやっていますが、実際問題、人数が6人か7人くらいになってしまっている。

風前の灯になっていますけれども、まだまだがんばるつもりでいますので、観光関係をやられている方などうまく結びつきができればと思います。

吸収されることがいやだからという思いもあるのですけれど、センターで取り持っていたいただければ、違った形が出てくるのかなという気がします。

**【庄嶋委員長】**

ありがとうございます。

**【事務局（齋藤副主査）】**

現在、市役所庁内20程の課の関係者が集まって中心市街地の活性化に向けた庁内検討委員会を立ち上げ検討をしているところで、おっしゃられたとおり中心市街地を活性化するという点に関しても、いろいろなジャンルの課が関わることによってより発展的な取り組みにつながっていくというところで市役所でも認識しております。

産業振興課での取り組みですが、市役所でも今後、横の連携取りながら、実際に事業実施部会とってプロジェクト的にどう動いていこうかという取り組みも進めている中で、私もその委員の中に入れていただいておりますので、みんなで地域づくりセンターとの絡みの中で、何か形にできないかという話も進めているところなので、参考にさせていただければと思います。

**【庄嶋委員長】**

船津委員いかがでしょうか。

**【船津委員】**

初めて参加させてもらって、ずいぶん広いなというのが感想です。

人と人とのつながり、団体と団体のつながりということが話題になっていますが、今のみんなで地域づくりセンターで把握している団体はどれくらいあるのですか。

**【事務局（齋藤副主査）】**

みんなで地域づくりセンターの場合、他のセンターと少々違うのですが、登録制を取っていないところです。

**【NPOクラブ（勝又）】**

市民活動情報サイトに掲載している団体が60強という感じで。

ヒヤリングは昨年40団体行いました。

昨年の課題として書いてあるように、いろいろな団体の活動がありますし、ボランティアセンターで把握している団体、生涯学習の団体なども含めると本当に沢山あると思うのです。

それをみんなで地域づくりセンターがどのように把握して、どのように提供していくかというのが課題で、センターで団体の情報シートなどを配って収集をしているところです。

**【船津委員】**

団体と団体の間の仲人のようなことは活動の中に謳われているのですが、大きな団体を一度に集めてという考え方ではなくて、小さな団体を何回かに分けて、その都度広げていく。

先ほどいわれたように、地区の回覧は薄っぺらなのから厚いまでいっぱい回ってきて、通りすぎていってしまっていてほとんど目を通さない。

例えば地区の行事とか市の行事の部分だけ、最近だとゴミゼロ運動だけはしっかり把握しておこうというのがありますが、他のことに関してはほとんど興味もなく、通り過ぎていってしまいます。

やはりこういうことがあるので文書で出すのもそうですし、文化センター、みんなで地域づくりセンターの中で掲示して啓蒙を図るというのも、やるときにはやはり広く大々的にやった方がみんなの興味を引くのではないかなという気がします。

**【事務局（宇田室長）】**

中村委員、船津委員さんがおっしゃったように自治会回覧を見ないという話は、そうだなと思うのですよね。

市民団体を標榜しているのは、市としてもセンターとしても把握しやすいのです。

今よく分からないのは、自治会の中でサークル的な活動をしている、あるいは自治会の中でボランティア的な活動をしている小グループが結構な数あるはずなのです。

そういった団体とコネクションできれば、そこからの伝達網というのは相当早いし、确实だし、太いし、賛同を得やすいのではないかということを見ると、我々の議論の中でも、正當に正面切って市民団体ですと標榜している人じゃないところも開拓していかなくてはいけないのではないかということは感じましたので、今年はそこら辺を攻めてみたいなと思っています。

**【庄嶋委員長】**

情報を伝えたり、掘り起こし、課題として何かありますか。

**【丸野委員】**

過去の実績として本当に沢山やられて活躍されているということにありがたいなと思います。



今後もそういう活動を続けてください。

**【猿橋委員】**

回覧の話もそうなのですが、いろいろな行事が沢山あって、もう全部見てられないというのが正直なところあると思うのです。

それと引っかけerわけではないのですけれど、みんなで地域づくりセンター成立から出入りさせてもらっていて面白いなと思ったのは、例えば「大きなテーブル」というのは最初の時期にはなかったと思うのです。

たまたまあの部屋が結婚式場で大きなテーブルがあって、あのテーブル邪魔でしょうがないねというような話で、それを処分するにも金がかかるというようなところで、とりあえず置いておこうということでした。

それを見てこれ何かに使えるなど、みんなで地域づくりセンターや市の方が感じて、それが「大きなテーブル」という名称で福祉団体のいろいろな工作物の販売を始めたというのは、これはすごくいいアイデアだと思うのですよね。

それがどんどん育っているのを見るのがすごく楽しみなのですよ。

その中でまずセンターの中で開催し、今度は文化センターの展示ホールでも開催している、あるいは他にもいろいろ出ているということをお聞きしていますけれど、例えば6月の何日から何日まで開催しますというのもいいのですが、市民全体から見ると埋没してしまって、多分関係者以外ほとんど分からないというところがあるかと思うわけですよ。

それに対して、もう少し人の出入りが多いところへ何とか出て、何とか一緒に協働するような形もいいのではないかと思います。

例えば大ホールはイベントによっては満員になりますよね。

となればあそこのロビーか何かをお借りして、「大きなテーブル」の販売をやるとなれば、より多くの人が見られる。

ひとつの機会でそのようなことがふたつできるとかいうようなこともあると面白いなと思います。

一種の協働事業だと思うのですよね。

そういうようなものも進めたら、もうちょっと多くの人に触れるのではないかなと思いまして、今までの動きに敬意を払っているわけなのですけれど、プラスそんなこともお考えいただいたら、それ以外にいっぱいあるかと思うのですけれど、面白いのではないかなという感じがします。

**【江口副委員長】**

先ほど回覧の問題も出ましたけれども、聞いたところによると、自治会回覧も大変なので、できるだけ折り込みは止めてほしいという要望が自治会から出ているということで、市としても回覧を断っているという方向だと聞いたことがあるのです。

もうひとつ、3ページに子育て支援団体交流会、これ1回目やられたということの意義は大変大きかったと昨年もこの会議の中で申し上げたのですが、今様々な委員が発言

していて思ったのは、みんなで地域づくりセンターでその会は開催され、頭の中から子育て団体という枠からすっぽり抜けていた例えば少年少女合唱団、YMCA、スポーツ少年団が関わってくれたので、今までと違うネットワークができそうだと感じ、面白かったのですね。

そういう意味ではすごく良かったなと思っているのです。

問題は場所で、例えば子育て支援団体の交流会を私たちまじりんこがやっている大記念コミュニティセンターでやりますといった感じでやっていくとお互いの実態みたいなものが分かって、そうかこういうのもあるのかという理解が深まっていくのかなという気がするののひとつと、もうひとつは単発で終わっていたのですよね。

これを年1回そこに参加していた私どもが本当はもっと積極的に出て行けばいいのでしょけれども、それを促していく役割、つまりコーディネートしていく役割をセンターの担当でやっていただけるとな良かったのかなという感じを持ちました。

**【庄嶋委員長】**

今のお二方の話で、事務局の方で何かあればお願いします。

**【NPOクラブ（勝又）】**

子育て支援団体交流会については、1回で終わっているのですけれど、今年度是非実施したいと思っております。

**【庄嶋委員長】**

はい、ありがとうございます。

**【事務局（宇田室長）】**

市からの回覧等については、自治会担当の自治振興課というセクションが担当していますが、確認します。

**【中村委員】**

回覧についても、いつも中学校区の交流会で議題になります。

本当にゴミになってしまう。

**【庄嶋委員長】**

はい、ありがとうございます。

本日は平成23年度の事業報告につきまして、新しい委員のご発言を是非一言ずつほしかったので回して聞かせていただきました。

センターをより知ってもらおうとか、センターに来てもらうとか、新しい団体、まだ発掘していない団体を発掘するとかということで、取り組みの見せ方とか情報の伝達の仕方というところで、皆さんいろいろとご意見をいただいたかと思うので、その辺りを踏まえていただければと思います。

(4) 平成24年度みんなで地域づくりセンター事業計画について

**【庄嶋委員長】**

既に今後の取り組みについてのアドバイスも出ているところですが、平成24年度事業計画、今年度こんなふうに取り組もうとしているというのをご説明いただければと思います。

#### 【NPOクラブ（勝又）】

資料7をご覧ください。

先ほど報告しました平成23年度の事業を継続して行っていくということがメインですが、地域課題の取り組みのプロデュースに関する事で、地域づくりサロンでは、「ワンディシェフの魅力」ということで「日替わりシェフの店 さくらそう」についてひとつの自立した団体として引き続きサポートしていきたいと思います。

それから、政策推進課から「ご当地グルメからまちおこしを考えよう」というテーマについて提案を受け、地域づくりサロンを企画し市民の参加を募ります。

自治会情報交換会は、昨年も行いましたが、自治会会長は約80自治会中50自治会くらいが交代すると伺いましたので、今年も情報交換会を開いていきたいと思います。

関連して防災講座ですが、昨年度8回行いまして、現在5自治会ほど、どんどんと取り組みを進めたり、他の自治会と情報交換を行ったり、新たに防災の活動を進めるために昨年の講師の紹介など、いろいろと活動が進められていますので、センターでもサポートしていきたいと思います。

今年度の課題としては、高齢者、障害者、外国人など災害弱者の支援について地域の自治会、民生委員、関係機関、施設、NPOなどとのネットワークづくりを目指すということで認識していますが、どこから始めたらよいかということで包括支援センターに相談に行きました。

包括支援センターのセンター長が場を設けてくださって、危機管理室と福祉政策課の方にも来ていただいて、連携についていろいろご意見を伺いました。

市では、手を挙げた援護者の方と支援する方を自治会が把握するという要援護者支援の施策を進めていますが、その中で、自治会で進んでいるところは進んでいるが、まだまだできていない自治会もあるので是非情報交換会などで情報交換を行って、全体のボトムアップをしてほしいというご意見が聞かれましたので、みんなで地域づくりセンターとしては防災講座や自治会情報交換会などでも、自治会の活動のボトムアップを進めていきたいと思っています。

「大きなテーブル」については、本日もチラシを入れさせていただきましたが、今年度も6月と11月に開催し、6月については、6月15日と16日、文化センターの展示ホールで販売などを行って、センター内では試食とお茶と、参加する地域福祉団体の活動の紹介を写真の映写などを行っていきます。

引き続き文化センターが広報の面などでご協力をいただいております。

現在、準備しているのが「夏休み小学生ボランティア体験」で、昨年5団体に協力いただいていた小学生に体験していただきましたが、今年は7団体の協力になっています。

それから「子ども記者育成講座」で、できれば今年度も開催していきたいと思います。

今は、子ども記者クラブと連携して、子どもへの発信を進めていきたいということです。

「子ども記者育成講座」なども大学生が参加していただいております、大学との連携もセンターとして進めていけるのではないかとということで、視野に入れて進めていきたいと思っております。

4ページ（8）で本業務終了後、市民が主体的に地域づくりコーディネートをやっていく環境づくりについてということで、今回の事業は平成24年度から平成26年度までということで受託が決まっております。

その中で市からの課題として挙げられましたので、市民主体の地域づくりのコーディネートを進めるために、平成24年度からの3年間で地域づくりのコーディネートを担う組織づくりを目指していこうと考えております。

特に今年は初年度で、新しいメンバーが加わっていますので、新しいメンバーのスキルアップ、人材育成を進めていきたいと思っています。

**【庄嶋委員長】**

はい、ありがとうございます。

それでは、これから取り組むものということであるのですけれども、四街道市のみんなが地域づくりセンターの最大の特徴というのは、今重点的に説明いただきましたが、プロデュースということですね、地域の課題に対して、その解決の取り組みを生み出すところに関わるということで、同様のこういうセンター、他の自治体では市民活動センターとか市民活動サポートセンターとかという呼び方が多いかと思うのですが、そういったところの場合、情報の提供ですとか、NPO法人の設立の相談ですとか、そういうものに応じるというのが多いのですが、なかなかこうやって地域の課題を解決していくきっかけとか場を提供していくというのはないのではないかと思います。

そこら辺がこのセンターを検討したときに最大の狙いにしたところなのですから、それが早くも前期でかなり具体的な形で見えてきているのですね。

それを引き続き今年度以降も進めて行かれるというところが、今の説明で見えてきたのかなと思います。

これは私自身の感想になりますけれど、こういうセンターができて今まで行政がやっていた事業をただ肩代わりさせるというのではなくて、今まで行政が取り組めなかったところを積極的にやっていっているのかなと思います。異なる分野に横断的に関わるということに関する取り組みを見いだしたりですとか、ですから福祉の話が出てきたり、防災の話が出てきたり、役所の中だったらそれぞれこの部署がやりますみたいになっているところを、ここのセンターは何でも扱っています。

自治会同士の情報交換というものもこれまではなかったと思います。行政側からの情報伝達はあっても、お互いどんな取り組みをしているのかということをお話し合う場がなかったと思うので、非常にプロデュースという意味で、多分全国的に見てもこんな取り組みは四街道のセンターくらいしかまずないのではないかとはいえるくらい形が示せてきて

いると思いますので、本当に地域づくりですね、頑張ってくださいなと思います。

最後にご説明があったように、3年間の業務委託の後の姿を見据えて、市民による運営ということに引き継いでいくというのも今示されたとおりですので、その話を聞いてどういうところに向かって3年間動いていくのかということも分かったなというところがあります。

以上は私の感想ということになりますが、他に何かおありでしたら挙手で伺いたいと思います。

**【中村委員】**

私は自治会をずっとやっています、去年から今年にかけての自治会関係の取り組みは非常に参考になりました。

やはり自分たちも井の中の蛙になっていますので、いろいろなところの情報が入ることによって、また自分たちの自治会も活性化できるというメリットが非常にあると思うのです。

先ほども言っていたように自治会も委員がどんどん替わりますので、継続性があつた方がいいと思います。

もうひとつ、これは私の個人的なことですが、事業が「勉強」ということでなく、もっと「遊び」の感覚がほしいです。

自治会をやっているのは、やはり「遊び」と「食べる」で輪をつくって何かの事業に持って行くという感覚が私にはあり、もう少し「遊び」の要素がほしいなと思います。

いわゆる喜んで入る、まず「勉強」からだ喜んで行かないのではないかという気がするので、その辺を考慮していただきたいなと感じます。

**【庄嶋委員長】**

何かご意見、ご質問あればお願いします。

**【江口副委員長】**

4ページの8番の項目、本業務終了後の話、私はすごく大事だなと思います。

私も自分自身で自戒しているのですけれども、口でしゃべって終わりというようなことがままあるので、コーディネート業務を行う人たちを現場で鍛えるということ、飲んだり食べたりしながら、たくさんやっていただきたいと思います。

研修だけではなく、そういうことを大事にしてもらうことが、コーディネートすることの面白味みたいなものを体感していけるのではないかなという気がするので、ひとつよろしく願いいたします。

**【庄嶋委員長】**

他にいかがですか。

**【猿橋委員】**

1ページ目の「ご当地グルメからまちおこしを考えよう」というのは、ある程度、指針や腹案があつて、それをもうちょっと大きくしようということでお考えになっている

のかどうか。

今日は船津さんお見えになっているので、農業関係とこのようなグルメとか、何か農業についてとそれ以外の市民活動、商工活動が離れているような気がするのです。

四街道は農業やまちと緑の多いまちとか一緒になっていて、それがうまく融合するともっといいまちになると思うのですが、このようなことに対しても「地産地消」、「四産四消」という考え方もあると思うのですが、農業関係と何か関連を持たして、このようなテーマを進めようというようなお考えがあるのかどうか、いかがでしょうか。

**【事務局（宇田室長）】**

そのとおりで、昨年度市長が当選しましたときのマニフェストの中にそういったものが一部含まれているわけです。

具体的にいうと、市民活動で蕎麦をつくってというような活動を実現しますよというようなことがマニフェストの中に、一例として蕎麦ですけれども、あります。

果たして蕎麦がいいのか否かについては、農業をやっている方のところに委ねられてしまうわけなのですけれども、グルメも他所から持ってきて、ぽっと四街道のこういうものというのではなくて、もともと四街道に根付いていた、あるいは元来、文化としてあった、それを継続しているあるいは復元してリニューアルして形になって、それがグルメになりましたよといったものだったら大義名分はあるのだろうと思いますので、そのあたりを大切にしながらのグルメといったような話の持って行き方をしないと、猿まねで終わって行政が踊っただけで終わってしまったという恥ずかしいものにはしたくないので、この点も含めながら農業者の方々の地産地消で、どういった産品をどういった活用をしたらいいのかというようなアイデアなどをいただきながら進めていかなくてはいけないという考えであります。

**【庄嶋委員長】**

農業の話題が出たところで、農業に取り組まれているお二人いかがですか。

**【船津委員】**

私がみんなで地域づくりセンターと関わったきっかけが「ワンデイシェフの魅力」で、その前にワンデイシェフで、私がシェフでご馳走するから、招待しますから来てくださいと言われて、お伺いしたのです。

その前に家に見えたときに、柚や文旦が成っていたり、家は成らせっぱなしで取らないから、好きな人はどうぞお持ちくださいと言って持って行ってもらって、私が行ったときに家のものですよと言って出してくれたことがある。

それから始まって、今宇田室長が言われたように、蕎麦をいかがですか、どうですか。

確かに四街道は蕎麦の会があって蕎麦を作っているところもありますし、実際には蕎麦打ちの会などもあると思うのですが、直接私はそこには関わってはいないので、私の場合には麦を組合として20何町歩つくっていますので、麦でパンなどを作ってみようかという話は一時あって、今止まっているのか、密かに進んでいるのかは分からないのですが、1週間以内に麦刈りが始まるから、その間に麦のほしい人、多

分A品質は海外から入ってくる麦の方が品質もいいですし、値段も安いので手が出ないと思いますが、やはり国産麦を守るために関税が課されていて、私は麦を作っていて、それに国の補助金としていただいて、作る側としては麦は全く儲からないから止めたいのですけれども、ほこりが立つからつくるのは続けてくれということでやっているわけです。

去年、麦を刈った後で、麦が欲しいということで、それではA品とB品どちらにしますか聞いたときに、A品の10分の1がB品です。

それで持って行ってもらったのですけれども、粉を挽いてみたらB品で粉を挽いた方が原価で計算するとB品の方が粉が取れますからB品をくださいとありました。

今年はこれから今日帰りに寄って、どれくらいの麦が欲しいのかというのだけを聞いて帰ろうかなと思っているのですけれども、今言えるのは、麦でしたら安い単価で供給できますよ。

先日、会議で麦を刈って乾燥してほしいというのをどなたかが言ってらっしゃいましたけれども、そのときに丸野さんが刈った麦も、刈るのは他の人が刈って来て、うちの施設で乾燥する時点でA品、B品に分かれて、それは丸野さんたち二人でそっくり使うから納品になるという話は聞いています。

方向としては地産地消といったら蕎麦か麦の方向になるのではないかなと私は思っているのですけれども、それは皆さん事務局のお考えで方向が変わると思います。

また四街道市の産品としては、カラーピーマンがありますが、私が市の委託でカラーピーマンの苗を今年だと1500位作っているのですが、市が種代を出して委託で播いて、育苗期を私のところで、あとは農家の人に無償で提供するのです。

契約している農家に無償で提供して、それを作って売るという形ですけれども、売るところについては市では見てくれないのです。

だから市の事業として行うのであれば最後まで、売るところまで面倒を見て欲しいと農家の人と言うのですけれども、今回改めて蕎麦なり麦なりでやったときには最後まで見られるような形でやっていかないと難しいのかなという気がします。

#### 【猿橋委員】

そういうつながりがいろいろできたらよろしいですね。

#### 【船津委員】

そうですね、私どちらかというところ堅苦しいのは嫌いだと思っています。

#### 【庄嶋委員長】

この委員会というのは、基本的には第三者機関的なところですから、ここ自体が実行部隊になることはないのですが、みんなで地域づくりというのは、それぞれが行政だけに任せるのではなく動こうということですから、皆さん委員という立場ではなくてそれぞれの元々の持ち分の方で、いろいろな取り組みの協力をしていただくとか、主体になっていくというのは一つ理想ですので、そういう取り組みを進めるときにまた声を掛けていただいて、いろいろな形で参加していただければいいと思います。

【丸野委員】

地産地消の話がありましたが、地域づくりの活動の中で、福祉関係、自治会、環境、教育、むろん農業、商工業ということがありますが、農業と商工業というのは地域づくりで営利が絡んでいるので、そこに垣根みたいなものがあるのではないかと考えていまして、特に市がこれをサポートするというので、冒頭にありましたけれども市の税金を助成事業に使っていいのかどうかという話に抵触してくるわけですね。

その辺をクリアにしないと、農業、商工業というのはやはり経済が関係します。

自治体の場合、地域通貨の観点が出てくると思うのですが、実際のお金をやりとりすることだとやはり対価が回らないと、まち自体は活性化しないと思います。

ただ営利だと個人事業に対する市の助成はおかしいということになってきてしまうので、応援しなければいけないけれども、どこまでやっていいのですかという、市として、あるいは市民の税金を使っていいのですかという点をクリアする話をされたらいいのではないかなと思います。

【庄嶋委員長】

問題提起として、ありがとうございます。

この辺りも今後検討すべき、大事な視点だと思いますね。

(5) みんなで地域づくり推進のための施策の進捗状況について

(6) みんなで地域づくり事業提案制度について

【庄嶋委員長】

残りの施策の進捗状況とその施策の1つであります提案制度、これを続けて事務局から説明をお願いします。

【事務局（齋藤副主査）】

資料8から10までご覧ください。

資料1のみんなで地域づくり指針のみんなで地域づくりを進める具体的な施策が9ページ、10ページに掲載されております。

大きな5つの施策の柱をもって推進を図る取り組みを進めており、これをみんなで地域づくりセンターや市が中心となって進めているところです。

その進捗状況についてお伝えいたします。

資料8をご覧ください。

先程来お伝えしておりますが、具体的なみんなで地域づくりに係る実行部隊ということでみんなで地域づくりセンターが関わっている関係もあり、この施策の進捗状況については、主にセンターの取り組みの紹介となっておりますが、市が具体的に動いている取り組みについてご紹介させていただきます。

資料8の1番、市民活動を活発にする施策ということで、1番「地域づくり情報の発信・提供の充実」ということで、現在市のホームページのトップから入れる市民活動の



情報を発信する市民活動情報サイトを運営しております。

具体的な運用はみんなで地域づくりセンターが担っているところですが、市で管理は行っております。

現在この市民活動情報サイトにつきましては、70団体程、登録されておりますが、実情として更新頻度、ページビューにつきましてもなかなか伸びていないところです。

今後1年程度かけまして市民活動情報の発信、相互コミュニケーションの方法等検討していければと考えております。

また、資料6で確認していただくとして、市民活動の情報につきましては市の広報担当課と協議し、可能な限り掲載しております。

イベントの開催だけに限らず、レポートであったり、取り組みのその後であったりという記事についても、小さい記事、大きい記事ありますが掲載しております。

2番「地域づくり体験講座の開催」です。

体験講座という形では取り組みは行っておりませんが、地域づくりを若い世代にも経験してもらうという考えで取り組みました。

小中学生の職場体験においては、通常、職場体験というと市の事業のコピー取りであったり、資料組みであったりということが多いですが、実際に市の職員に業務の話聞く機会を設けたり、ボランティア団体、市民団体の活動を直接体験してもらう内容で行いました。

今年度につきましても職場体験の話をしていただいておりますので、同じような形で地域づくりを体験していただこうと思っております。

3番につきましては、後ほどご説明いたします。

大きい柱の2番目「市民活動と市政が協力する施策」、1番「地域づくりにつながるような事業の実施」ということで、基本的にはみんなで地域づくりセンターで具体的な取り組みは進めているところですが、市でも市の花サラソウの普及ということで、サンラソウの会によるサクラソウの展示会、自生地づくり、植え替え講習会などを実施していただいております。

今年度につきましても4月に市内の4カ所で展示会などを開催し、多くの方にご覧いただいたところです。

3番「協働事業提案制度の整備」ということで、こちらも後ほど説明いたします。

大きな柱の3番「市民協働プロジェクト」ですが、小さな地域課題の解決を図る取り組みではなく、市の重点的な、重要な課題についてひとつの大きなプロジェクトとして、関係する主体をコーディネートして重点的にその解決に取り組むということを市民協働プロジェクトと呼んでおります。

資料10の3をご覧ください。

先ほど説明がありましたが、市では36個の行政課題を解決するためのアクションプランを示しております。

36のアクションということで、平成25年度を目標に解決に向けた取り組みを進め

ているところです。

例えばこういった取り組みを市民とともに解決していくためのプロジェクト、また現在検討している提案事業などを絡めながら取り組みとして進めていく可能性はあるのではないかということで、こういった話が具体化したときは、市民協働プロジェクトという形で進めていければと考えております。

4番、5番については、みんなで地域づくり推進委員会で地域づくりの施策の検証、推進体制を整えていければと考えております。

資料9をご覧ください。

こちらは県ホームページにも掲載されておりますが、政策推進課以外の四街道市役所関係各課におけるNPOやボランティアの協働関連の取り組み事業を一覧化したものです。

#### 【庄嶋委員長】

進捗状況の次は提案制度についてお願いします。

#### 【事務局（齋藤副主査）】

委員長からもありましたとおり昨年度2回に渡り、現在行われている地域づくり活動助成事業の見直しについて検討を行っているところです。

先ほどの36のアクションの36番目のアクションということで、現在行っている地域づくり活動助成事業をより多くの市民の方にご利用いただき、地域づくりに資する活動を行っていただくための制度を検討するものです。

2回の議論を経て、整理したものを資料10の1「みんなで地域づくり事業提案制度概要」にまとめております。

本制度につきましては、NPO法人、ボランティア団体、その他自主的に地域づくりを担う団体が、地域課題の解決を図る事業について提案を行う制度と定義づけております。

市民団体と市双方が持っている社会資源を持ち寄って、地域の課題の解決を図り、その事業の実現性を高めていくことが狙いです。

この事業、3つの大きな部門に分けて行いたいと考えております。

ひとつは拠点づくり部門、みんなで地域づくりの拠点となる設備や施設の整備を重点的に行う事業に対して補助金を交付する事業部門です。

もうひとつ、地域づくり部門、これは従来行われております地域づくり活動、市民活動を活発にするような取り組みについて補助金を交付する部門です。

3つ目、アンダー19部門です。

四街道市で掲げております「子育て日本一のまちづくり」ということで、高校生以下の若い世代にも、地域づくりを体験できるような、地域づくりを一緒に行っていけるような部門を設けたいというところで設けました。

みんなで地域づくりセンターや政策推進課等が連携協力を図りながら、こういった若い世代にも地域づくりに関われるような環境づくりができればというところです。

次ページ5番、この提案制度を行うに当たっていろいろな事業実施の形態があるかと思えます。

市民団体と市が企画段階から実施段階まで一貫して連携を図って事業を実施していく事業をコラボ型として項目として設けております。

もうひとつはサポート型です。

現在の地域づくり活動助成事業もこちらに近い形ですが、行政側が市民活動を後方支援する形で事業協力をして、事業の効果や実効性を高めていくものです。

7番補助金の額です。

拠点づくり部門につきましては、上限500万円、地域づくり部門については、現在の地域づくり活動助成事業の上限でもあります50万円、アンダー19、若い世代の部門については5万円を、現時点では挙げております。

3ページ10番として、現在の助成事業の制度と新しい制度の比較を並べております。

また次ページには概要図として流れを含めて記載しております。

資料10の2につきましては、ご説明させていただきました内容をガイドラインという形でまとめたものとなります。

先にお配りしておりますので、お目通しいただいているかと思いますが、こういった流れで提案から実施まで行いたいと考えております。

#### 【庄嶋委員長】

はい、ありがとうございます。

今市で取り組まれているみんなで地域づくりに関わる施策の報告をしていただきまして、その中の1つであります今までの助成金制度から提案制度に見直すという部分の話もしていただきました。

提案制度への見直しの話はこれでひとつの話ですから置いておいて、それ以外のところでの今進捗報告があった内容で、何かご質問、ご意見ありますでしょうか。

情報発信の関係や職場体験、サクラソウ普及事業といったものが主に出ていたところですが、よろしいでしょうか。

時間の関係がありますので、時間を重点配分しなければいけないので、提案制度について議論を移します。

前期のこの委員会の中で、何度か情報提供などを受けて簡単な議論はしてきましたが、そういうのを踏まえてひとつのまとまった案として市でまとめているということになります。

スケジュール的に今後どんな形で固まっていくのでしょうか。

#### 【事務局（齋藤副主査）】

資料10の2をご覧ください。

現行の地域づくり活動助成事業が例年1月に募集をし、2月、3月に審査をして、4月に実施という形を取っております。

新しい制度につきましては、みんなで地域づくりセンターや市の関係課と協議、意見

交換を十分に行った上で事業実施できればと考えている関係で、募集時期を今年中に開始できればと考えております。

ひとつの案として資料10の21ページ目で、秋に提案の募集をしまして、締め切りを年内に行い、意見交換等も経まして、年明け早々に委員会でその審査をできればと考えております。

その審査を経た後もさらに計画を深化させていくための意見交換の場も、関係課やみんな地域づくりセンターとで作っていただければと考えております。

**【庄嶋委員長】**

先ほどのスケジュールでこの委員会の今年度の予定が次は10月で、その後12月ということなのですが、大きな骨格になるような部分というのは、ほぼ今日の後固まるような感じで、より詳細な審査の仕方などはまだ秋くらいで間に合うという感じなのですか。

今日、新しい委員の方は、なかなかすぐご意見が出ないかもしれませんが、率直に今出ているものに対して、ご質問とかご意見ありましたらお願いしたいと思います。

**【大沼委員】**

この提案の募集は、具体的にこういった形で募集をかけるのでしょうか。

**【事務局（齋藤副主査）】**

具体的な方法としては市政だよりに掲載し、自治会回覧、ウェブ、ネット関係を通じて事業に対する提案を募集します。

**【庄嶋委員長】**

他にいかがでしょうか。

**【熊倉委員】**

何団体くらい採用される見込みですか。

**【事務局（齋藤副主査）】**

全く新しい制度なので、どのくらいの団体が出てくるか読めないところですが、現行の制度を参考にすると10団体前後を想定しています。

今回若い世代の部門も設けたので働きかけによっては、そういった部門も増えるのかなと思います。

**【庄嶋委員長】**

総額などは未知数なのですか。

**【事務局（宇田室長）】**

総額はまだ霧の中ですが、ただ地域づくり部門に関しては現状の予算額が160万円ですので一定の指標になります。

財政力からするとそれより増えることはないと思います。

拠点づくり部門が先ほどの説明で上限500万円というメニューとなりますので、それが何本くらいになるかというところです。

ただ提案の募集期間が10月から始まり、予算組みの時期と重なりますから、募集し

て、仮提出を受けて、意見交換を重ねる中で、目星がついていくといったようなことになりますので、良い提案が出てくればそれなりの予算額をつけて、相当数拾えるようには整えては行きたいなとは思っています。

**【庄嶋委員長】**

ご意見ありますか。

**【丸野委員】**

審査基準は、これからこの委員会で作っていくということになるわけですか。

**【事務局（齋藤副主査）】**

はい、そうです。

次回委員会、あるいはその次の委員会の中で揉んでいき、作り込んでいきたいと思えます。

**【丸野委員】**

大体の案や叩き台は提示できないですか。

**【事務局（齋藤副主査）】**

資料11をご覧ください。

現行の地域づくり活動助成事業の平成24年度分の審査の結果が掲載されております。

別紙2に評価項目が掲載されていますが、形態としてはこういったところがひとつ目安になってくると思いますが、額も大きくなってきますので、細かい点などについてはどういった基準に基づいて審査していくかというのは、委員会で揉んでいければと思います。

**【事務局（宇田室長）】**

補足ですが、拠点づくり部門は事業費がかなり大きく設定しております。

仮提出をしていただいた後に、資料10の2の1ページに今後の予定で記してあり、仮提出期限が10月25日、意見交換等が10月25日から11月30日までの期間を予定しています。

市の担当課と入念な打ち合わせをする中で、事業費の適正性あるいは事業内容、期待される効果など行政と十分打ち合わせさせていただきながら軌道修正していき、それを踏まえた後に公開プレゼンテーションに参加していただくというような順を踏む流れになっておりますので、我々が関わることによりまして、若干洗練された事業になってくという、期待も含めて、仮提出、意見交換という部分を設けるといことです。

**【庄嶋委員長】**

他にいかがですか。

**【丸野委員】**

これは市と市民活動のコラボだと思のですが、1対1の関係を何となくイメージするのですが、そこをさらにコーディネーションというか、他の関係団体、農業とか商工業とかというエリアの中で、初めの申請は誰かがするのですが、協力を募って、その中で協力関係を築きあげるといコーディネーション機能といのはあるのでしょうか。

【事務局（齋藤副主査）】

決して1対1のものではないというところです。

実施団体がひとつの実行委員会的な組織を作っていたとしても構いませんし、連名で出していたとしても構いません。

ガイドブックの11ページにも記載しておりますが、みんなで地域づくりセンターの場を使って関係各課、関係団体と市民活動推進室を踏まえて、コーディネートしていくサポートも行う予定です。

15ページ、7月1日号の市政だよりに掲載予定ですけれども、まだ企画には至らないけれども、こんなアイデア形にできたらいいなとか、こういった主体と何かできたらいいな、といった程度のレベルのものでも出していただけのような「アイデアのたね」を市民向けに募集する予定です。

これは提案者が希望する場合は、公表する予定です。

公表して新しい仲間を募るなり、みんなで地域づくりセンターで地域づくりサロンに依頼する、関係団体への働きかけ、そういったものを期待して、募集する予定です。

そういったアイデアを出していただくことによって、いきなり提案を出すという段階ではなくて、2ヶ月、3ヶ月か掛けてその芽を育てていくというのも現在検討しております。

【庄嶋委員長】

そうですね、地域課題の把握ということのひとつのプランですね。

他にいかがでしょうか。

私からいくつかあるのですが、丸野委員が言われた1対1、役所の一部署とどこかの団体という形だと、地域課題の解決という意味では広がりには欠ける部分があって、もともとこの協働という言葉というのは、最初は役所対市民団体みたいな感じでしたけれども、今は地域の中での異なるタイプの市民団体が協働していくというのが、地域力だとかそういう形で出されていると思うのですね。

私もいろいろな自治体の助成金や協働事業提案制度の審査委員として審査に関わって見ていると、提案をする段階で既にいくつか他の団体と組んで出してくるとか、そういうところと連携するつもりであるというのがあります。そのことがひいては先ほどの審査基準とか、項目でいくと連携・協働性みたいなところが入ってきて、そのこのところにウェイトを置いて評価されるというのがあったりするので、その辺も考慮に入れていただければと思います。

今までの助成金の場合は1年間単位で、団体が提案してやりたいといったものを、この委員会で審査するといった形でしたけれども、役所がもう少し関わる形のコラボ型はそうなるかもしれません。

そうなったときに出口の面、事業をやった結果、それが何につながるかというところで、役所側の責任や、どう関わっていくかの問題も出てくるようなところもあると思うのです。

出口には大きく分けると二つあって、ひとつは団体がある程度自立的に事業に引き続き取り組む、その基盤をつくっていくということがあると思うのですけれども、もうひとつ、市が提案するタイプのものになると、市にとっても大事な課題であると認識して、募集するわけですので、ひとつの実践的な取り組みをやってみたところ、こういう取り組みのやり方ができるということが分かったときに、その課題自体はその後も続くわけですから、逆にいうと役所の側の事業に位置づけて何らか継続する出口もあり得ると思うのです。

そういうところの出口の整理や想定というのも考えておいていただいた方がいいかなというのを感じます。

その辺何か議論してきたことがあればお願いします。

**【事務局（齋藤副主査）】**

現在の制度では、事後評価を行っていないのですが、今後、委員会で評価の基準、評価の仕方等も検討していく中で、委員会だけの評価だけではなく市側も団体を評価し、市が今後どう関わる、この事業をどう発展させていくのか、継続させていくのか、終わらせるのか、といったところも市の関係各課に問いかけていくべきだということも考えています。

そういった内容についても委員会で検討できればと考えています。

**【庄嶋委員長】**

どう続けるかというのは、さっき出たお金というのが関係してくるではないですか。

それ自体はわざわざ各部署が予算を取らなくてもこの仕組みを活用すればいいわけですが、この取り組みが有用であるということになると、今度は各部署で予算を取らなくてはいけなくなる。

そうすると今やっている取り組みのうちの何かをやめて、新たな事業に切り替えるのかという話が出てくることになるので、その辺も含めて検討しておいていただければと思います。

他にありますでしょうか。

**【小島委員】**

事業評価なのですが、通常の評価ではなくて、現場で評価するということが考えられないのですか。

**【事務局（齋藤副主査）】**

報告会という形でしょうか。

**【小島委員】**

報告会ではなくて現場での評価です。

**【事務局（齋藤副主査）】**

ひとつこの委員会を立ち上げたときに、各委員が市民活動の現場に出て行くことについての議論が出ました。

可能であれば積極的に出て行くべきだという話も出てきている中で、助成事業という

ピックアップされた事業について各委員が関わるというのは、評価する上で重要なポイントであると考えています。

助言やアドバイスといった関わり方もできます。

**【小島委員】**

実は、一昨年、山武市で県のプラットフォーム事業でコーディネーターをやっていたのですが、推進委員の方には出来るだけ現場に出てくださいとお願いしていました。

そうでないと本当に机上の話になってしまって、事業の内容を評価できないと思うので、出来るだけ現場に行ったほうが良いとお願いしていたのですね。

本当に評価するというのであれば、やはり実情を見ないと分からないということもあると思うので、私はできれば現場に行きたいなと思っています。

**【庄嶋委員長】**

それは取り組みが始まって以降の経過観察みたいな感じですよ。

**【小島委員】**

団体からすると見られているのが嫌だというのがあるかもしれないのですが、一緒になってやってあげることも必要だとも思います。

**【熊倉委員】**

今後の継続性の問題でお聞きしたいのですが、この補助金の助成に当たって団体が利益をあげるために支援をするというような仕組みがこの助成金制度にはあるのかお聞きしたいです。

持続性の問題で、補助金がなくなってそこで活動がストップしてしまうというのはもったいないので、継続をしていくために自立をして自分たちで何らかの運営資金を稼げる仕組みを考えていかなければいけないと思うのですが、最初から求めるとハードルが高いと思うので、自分たちの足で稼ぐまでの支援というのが、この制度にあるのかお尋ねしたいです。

**【事務局（齋藤副主査）】**

現行制度は、いわゆる営利に関する部分で対象とならない点もありますが、今回の制度は、提案が通る前提として公共性であったり、公共的な取り組みであったり、地域の課題を解決する取り組みであるということがあるので、その事業を継続していくために生み出すお金に関しては認めていこうという制度にしているところです。

補助率は10割であったり、そうでない場合もありますが、できるだけ自分たちで継続していけるような仕組みをつくっていくために、必要性に応じて、場合によっては3年間の支援もあるといった点も盛り込んでおり、そういった環境づくりのお手伝いもできたらなと考えております。

**【事務局（宇田室長）】**

3年継続というのは約束するものではなく、1年目、2年目、3年目の発展性がないものに補助し続けるというのは避けるというようなことは確保した制度にしておきたいなとは思っています。



【庄嶋委員長】

そのためにも評価、途中の経過観察みたいな形がかなり大事になってくるのかなと思います。

それではよろしいでしょうか。

【大沼委員】

去年の評価や今年の評価はあるのでしょうか。

【事務局（宇田室長）】

ないです。

評価は来年ということです。

【太沼委員】

当事者が反省ではないですけど、振り返ってこうでしたということは、私も賛成なのです。

補助金をもらった団体ももらってしまって自由にできるというわけではないですけど、しっかり補助金を有効に使っているかを把握することはいいじゃないかと思います。

去年の団体の活動について見てみたいという希望はあります。

【庄嶋委員長】

これまではその評価がなかったわけですね。

【事務局（宇田室長）】

全くないかという、そうではなくて、事務的にその後どのように活動していますかという追跡調査はしていて、それは皆様にお返ししてはいなかったです。

(7) その他

【庄嶋委員長】

では、ここまでとさせていただきます。

最後にその他についてお願いします。

【事務局（齋藤副主査）】

資料11をご覧ください。

昨年度2月に審査を行って4月1日より事業を実施している事業の進捗状況となります。

新しい委員におかれましては、どんな事業が採択されたのかまだお知らせしていないところだったので、提案事業の要望書と審査のポイント、審査につけられた付帯意見を掲載しています。

現在のところ採択されました5団体のうち、クリスマスイルミネーションを除く4団体が具体的な計画を提出し、助成金の申請をされております。

現在、クリスマスイルミネーション実行委員会につきましても、12月のイベントにむけて、政策推進課で事業計画の助言、アドバイスを行っているところです。

今後これらの事業の具体的な実施時期、具体的な活動時期などを各委員お知らせする中で、関われる方がいらっしゃれば是非見ていただければと思います。

**【庄嶋委員長】**

今日が第1回で、新しい委員の方は面食らったという感じかもしれません。

今日は議題が多めだったのは確かです。

ただ雰囲気としてはこんな感じで、説明を聞いてただ黙って、はいどうぞという感じではなくて、皆さんのそれぞれの立場からのご意見、みんなで地域づくりということで、それぞれの分野からの発言をしていただいで活発に進めていきたいなと思っております。

次回の日程調整などはまた事務局から来るとしますので、よろしくをお願いします。

それでは平成24年度第1回みんなで地域づくり推進委員会、以上とさせていただきます。

どうもみなさんお疲れ様でした。